

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100384		
法人名	有限会社 はるひ福祉サービス		
事業所名	グループホームはるひ苑		
所在地	山口市仁保中郷2321番地2		
自己評価作成日	平成30年 5月 22日	評価結果市町受理日	平成30年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年6月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりと楽しく自由にありのままに～の理念のもと、自然豊かな仁保の地で、自分らしく他の人と協力しながら生活できるように支援している。また、近くの「仁保の郷」という道の駅のイベントを見に行ったり、裏山や田んぼの中の道を散歩し楽しみながら、下肢筋力を鍛えている。 ほぼ毎日スーパーや仁保の農家が、出されている旬の野菜、その日の献立の買い物を入居者と一緒にし、食事作りをしている。また、他の事業者への就業支援もおこなっている。それは、その方の得意なこと、包丁研ぎや盛り付けをして頂き、賃金を得ている。仁保地域に、「はるひ便り」を発行し、認知症に関する情報提供をしている。地域の方と気軽に交流できるように地域の行事にも、できる限り積極的な参加をしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は三食とも献立から食材の買物、準備、調理、盛り付け、配膳、後片付けといった全ての作業を利用者と職員が一緒に行っておられます。その作業に利用者一人ひとりがやってみたいことやできることに取り組まれており、生活の張り合いや自信にもつながっておられます。利用者一人ひとりには違った個性を持っているという事業所の考えのもと、思いや意向の把握はきめ細かに収集され、利用者の希望や習慣、楽しい事を把握されています。元事務職の利用者には古切手の整理を、元青果商の利用者には食材選びや下ごしらえの中心的な役割を、販売の得意な利用者や包丁研ぎの得意な利用者への満足のいく場面づくり等、利用者がやりたいことを、やりたいときに楽しくできるように場面づくりを工夫しておられます。事業所から馴染みの美容院の利用や馴染みの商店での買物、馴染みの名所旧跡への外出に加えて、教え子や家族の協力を得られて、同窓会や演奏会、馴染みのイベントに参加されるなど、馴染みの関係を大切に継続されています。職員は出勤時、退勤時には利用者一人ひとりと挨拶を交わされて、コミュニケーションを大切にしておられ、利用者は理念にあるように楽しく、自由に、ゆったりと過ごせるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で、入居者と職員で理念を唱和している理念を実践できるように日々努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、職員は毎日、利用者と一緒に唱和している。カンファレンスやミーティング時には、利用者がゆったりと楽しく自由にありのままに暮らしているかを話し合って共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	はるひ便りの発行をして、認知症の情報発信をしている。幼・小学校の運動会の案内を頂き、毎年楽しみに観覧している。地域の方から、例えば、お手玉などのボランティアの情報などの電話がある。	事業所の紹介や家庭での認知症介護方法を載せた地域版の事業所だよりを毎月作成して、地域全戸(900件)にポスティングで配布している。近隣や小学校、道の駅、郵便局には利用者と職員と一緒に持参している。利用者は、幼稚園と小学校の合同運動会や農業祭に職員と参加している。ボランティア(トロンボーン、ハーモニカ、サキソフォンなどの楽器演奏、日本舞踊)の来訪がある他、餅つきに来訪している地元中学生との交流を楽しんでいる。利用者は、近くにある道の駅での買物や散歩時には地域の人と挨拶を交わし、近所からは旬の野菜や花の差し入れがあり、事業所の畑での野菜栽培に、地域の人から助言をもらっているなど、日常的に交流している。利用者の無断外出時には近隣住民から連絡があり、自然な形で見守りをしてもらっている。代表者は地元の中学校に出かけて、認知症やグループホームを理解してもらための講話を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	はるひ便りの発行の欄に、認知症の相談窓口の紹介をしている。裏面には、詳しい認知症の症状などの掲載をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を、真摯に受け止め、改善に取り組んでいる。	自己評価は、管理者がミーティングの中で評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を全員に配布し、提出後、管理者が一人でまとめている。管理者は職員全員の自己評価を通して、空白の部分課題として受け止め、今後、研修で取り組むこととしている。前回の外部評価結果を受けて事故防止のために感染症(ノロウイルス、インフルエンザ)予防のマニュアルやキッドの整備等、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	はるひ便りで参加を呼び掛けている。2ヶ月に一回の運営推進会議には、地区の民生委員、市の介護保険課、他事業所、ご家族などの出席を得て防災に関する事や取り組みなどを話し合い向上に生かしている。	会議は2カ月に1回開催し、内3回は「身体拘束委員会」と合わせて実施している。利用者の状況や介護の状況、行事報告と予定、地域行事への参加状況等を報告の後、地域防災についての情報や徘徊ネットワーク等について話し合いをしている。家族から職員の名前と顔が一致しないという意見があり、職員の顔写真と名前を掲示しているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いしている。疑問などは、その時質問している。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出向いて情報交換を行い、相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話で情報交換や運営上の疑義、困難事例の相談を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルについて職員全員に周知している。玄関の施錠については、夜8時施錠、朝8時開錠している。防犯上の配慮であり、日中の施錠はしていない。	職員は、マニュアルを基にした研修や「言葉、態度による虐待、拘束チェックリスト」を通して学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば、一緒に出かけて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。地域組織や近所の人の協力を得て自然な見守りが実施できている。主治医とともにドラッグロックの防止に努めている。スピーチロックについては管理者が指導し、職員間でもお互いに注意し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を交替でしている。外部研修の参加を予定している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内のミーティングでの勉強会を予定している		
10		○契約に関する説明と納得	契約に関しては、十分に説明し納得して頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回の家族総会や入居者の面会の時、要望や意見を聞くようにして、運営に反映するようにしている。	相談、苦情の受付体制や公的機関の相談窓口を重要事項に明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明をしている。毎月、家族に事業所だよりや返信付介護計画書、モニタリング、受診票等を送付して、利用者の生活状況を伝えて意見が言い易いように工夫している。面会時や運営会議時、年1回の家族会時に聞いている他、電話や手紙、毎月の返信で聞いている。意見や要望は「家族等関係者連絡記録」に記録して職員間で共有している。家族からの個別ケアや利用者の状態についての相談には即対応するように努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議の時、意見を出し合い運営に反映させるようにしている。また、提案はいつでも受けている。	管理者は、月1回のミーティングの中や毎日の朝礼時、研修時、カンファレンス時、年1回の個人面談時に聞いている他、日常業務の中で意見や提案があればいつでもメモを管理者の机上に置いてもらっている。代表者は、職員からの意見を重要と考えており、年1回、個人面接の時間を設けて意見や提案、要望を聞いている。業務内容による職員の役割や分担についての意見を運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、個々の意見や要望について耳を傾けている。有給取得など職場環境や働きやすい条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得を支援している。 毎日5分間、協働学習をしてお互いの向上に努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。年間では初任者研修1名、管理者研修1名、実践者研修1名が受講している。受講後は研修報告を提出し、その内容を事務室に掲示して共有している。法人研修は、年1回、外部講師を招いて実施し、全員が参加している。内部研修は、年間計画を立て、毎月1回、管理者や職員が講師となって実施(認知症について、食中毒予防、身体拘束・虐待防止、感染症、ターミナルケア、事例検討等)している。新人研修は、法人において接遇や理念について研修の後、日常の業務の中で管理者や先輩職員から指導を受けている。資格取得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの事業所のコンサートや運営推進会議に出席している。グループホームの研修に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞き、その方の安心と信頼を得る事ができるように情報をスタッフ間で共有し、声掛けや話をきくようにしている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接で家族の要望を聞き、よく話し合いプランをたて、説明し納得して頂けるように努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境の変化がもたらす不安が安心にかわるように本人、ご家族の希望に沿った支援をする。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活習慣をリハビリとしているので、料理、洗濯、掃除など職員と一緒にできることをして頂いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたご家族に、いままでの様子を聞いてコミュニケーションをとるようにしている。また、苑での現状をありのままに伝えるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの名所めぐりや、職場訪問などして、記憶を呼び覚まして頂いている。	家族の面会や親戚の人、近所の人、教え子の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。事業所から馴染みのスーパーマーケットや道の駅、馴染みの美容院、地域の名所、旧跡、慰霊のための寺参り、自宅付近等に出かけている。利用者の教え子の協力を得て、教え子の自宅に行ったり、同窓会、趣味の会等のイベント、外出に出かけている他、家族の協力を得て、法事への出席や墓参り、一時帰宅、外泊など、馴染みの人や場所との交流が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	社会生活なので、トラブルもあるが、共同生活ができるように配慮している。例えば食器洗いなど交替でされることもある。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても関係が途切れないように、年賀状、暑中見舞いなど出して、いつでも連絡していただけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式での情報をもとに本人の意向に沿った介護を心がけている。	入居時のセンター方式(基本情報や生活史、暮らし方、心身の情報)活用している他、日々の関わりの中での会話(何をしたいのか、どんな所に行きたいか、何を食べたいか)や表情、行動等を生活記録に記録して、利用者の思いや意向の把握に努めている。元事務職であった利用者は、切手の管理やアフリカ難民のために古切手の処理をし、元青果商だった利用者は食材の準備の中心になっての活躍、包丁研ぎの得意な利用者は他施設に指導に行くなど、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め支援に取り組んでいる。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に記入して頂いた、センター方式により、馴染の暮らし方の推察したり、昔話を聞いたりしているが、時間が足りないこともあり、ゆっくり聞くことが出来ないこともある。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で、今日何をしたいか聞くようにしているが、単調になることも多い		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のモニタリングで、課題やプランの検討をしている。各担当の入居者モニタリング、経過報告書をしている	利用者を担当している職員と計画作成担当者が中心となって、月1回、カンファレンスを行い、本人や家族の思い、主治医、看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、計画の見直しをしている。朝礼で日々のケアについて検討し、利用者の状態の変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録への記録が単調になることもある。特に注意すべきことは、業務日誌で伝達しているが、十分でない時もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人違う個性を持っておられるので、その時々に対応できるように努力をしているが、十分応えられているとは言えない。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	仁保の地域資源を活用しきれていないが、少しずつ協力をえられているように思う。今後さらに、取り入れて行きたい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の要望に応じている。かかりつけ医として月2回の往診をして頂き、適切な医療を受けられるようにしている。	本人や家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診、休日、夜間等緊急時の往診がある。他科受診は事業所が支援している。2か月に1回、薬剤師が来訪している。受診結果は家族には電話報告や月1回受診票を送付し、職員とは業務日誌や連絡ノートで共有している。利用者の健康管理は事業所の看護師が週2回、来訪して実施し、適切な助言を受けたり、医師への連絡等、連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や気づきを報告し、適切な助言を得ている。また、感染症の予防にも取り組んでいる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院をされる時は、よく話あい情報の交換をしてお互いに理解を深めて対処している。早期に退院できるように主治医、医療機関とも連携をとり、支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時、重度化の場合の意向を聞き、当事業所のできる事を説明している。その都度、何度も家族の意向を確認し、主治医に報告している。	契約時に事業所のできる対応について家族に説明して同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を確認し、主治医や看護師と話し合い、取りケアや他施設への移設も含めて方針を決めて、共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	入居者の事故防止については、初期対応し、指示を得るようにしているが、咄嗟の場合はまずあわてない事を申し合わせている。事例を職員間で共有している。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット・事故報告書に状況や対応、予防策を記録し、事業所内に掲示して、一人ひとりの事故防止に努めている。事故防止に備えて感染症のマニュアル(ノロウイルス、インフルエンザ)を作成し、キットも整備している。GPSの利用もしている。内部研修で食中毒や感染症についての研修を実施しているが、急変や事故発生に備えて、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の防災訓練をしている。運営推進会議で地域の防災の情報を得ている。かまどでご飯を炊き、電気を使わない食事の実践をしている	年2回(内1回は消防署の協力有)、昼間の火災、地震、水害を想定した通報訓練、避難訓練、消火器の使用方法を利用者と一緒に実施している。運営推進会議で訓練への参加や災害時の協力を依頼し、避難場所についても検討をしているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。災害時に備えて、かまどでのご飯の炊き方や水、食料品の備蓄をしている。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保が保たれるような言葉かけができるように努力している。	職員は入職時研修(接遇)や内部研修で、人格の尊重とプライバシーの確保について学び、利用者一人ひとりに尊敬の念を持ち、呼称は名前を使い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。事業所では「挨拶に始まって挨拶に終わる」をモットーとしており、毎日、出勤時、退勤時には一人ひとりの利用者に挨拶をしている。不適切な対応がある場合は管理者が指導し、職員間でもお互いに注意し合っている。個人記録の保管や取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーション不足に陥らないように、本人の希望がきけるように努力しているが、迷われ自己決定できないことも多いが、しっかりと、意思表示をされることもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われ、都合を優先してしまうこともあるが、その方の希望に沿いたいと思い、ケアしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行き、髪型を自分で決めて頂く方もおられる。入浴後の洋服は、その方の希望に沿って選んで頂いている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜や魚を取り入れ、毎日献立の話し合いをしている。買い物から調理まで職員と一緒にして頂いている。食後の食器の後片付けは自分でされている。	食事は三食とも事業所で利用者と職員が一緒につくっている。利用者の意見や好みを聞いて毎日献立を立て、近くの商店や道の駅での食材選び、苑の畑で取れた旬の野菜や近所からの差し入れの野菜を使い、下ごしらえ、調理、味付け、自分の食器洗い、後片付けなどを利用者と職員が一緒にしている。おやつづくり(サンドイッチ、おむすび、おはぎ、スポンジケーキ)や戸外テラスでのお茶やプレート昼食、誕生日食(好きなもの、スポンジケーキにトッピング)、季節の行事食(おせち料理、節句の寿司、恵方巻、父の日のアンパンづくり、ソーメン、スイカ割り、土用の鰻、彼岸のおはぎ、餅つき)、季節の保存食づくり(梅ジュース、梅干し、茄子やきゅうりの麴付け、大根葉の漬物)、晩酌、家族との外食など、食事を楽しむことができる支援を多くしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、10時、15時は水分補給を必ずし、それ以外にも、随時補給をしている。水分補給の難しい方は、お茶寒天、ゼリーなどで水分補給をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂き口腔ケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人のパターンを把握し、トイレの声掛けをしている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を取り、便秘の予防をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は2日に一回、体調に配慮しながら行っている。入浴の意思は毎回確認している。	入浴は、14時から17時までの間、利用者が希望する時間や順番、湯加減、本人の石鹸等、希望に応じてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、順番や時間を変えたり、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて手浴、足浴、シャワー浴、リフト浴、アロエ軟膏の塗布等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動して頂き、夜、睡眠がとれるように支援しているが、夜、眠れない方は、居間でお話したり、お茶を飲んで頂いたりしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、確実に服薬して頂くようにしている。時として、服薬モレが発生することもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を支援している。包丁とぎ、料理、生け花、工作、習字など生活の中での楽しみをみつけて頂く。	献立づくり、食材選び、食事の下ごしらえ、調理(煮る、焼く、揚げる、混ぜる、味付け)、盛り付け、後片づけ、食器洗い、献立書き、保存食づくり(梅干し、麴付け、白菜漬け、大根葉漬け)、晩酌、掃除、モップ掛け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物収納、花を生ける、野菜を植える(ゴーヤ、じゃが芋、キュウリ)、野菜の水やり、椎茸販売、包丁研ぎ、古切手の整理、新聞、雑誌、本を読む、テレビやDVDの鑑賞、ラジオを聴く、歌を歌う、ピアノを弾く、習字、散歩、ラジオ体操、足踏み体操、口腔体操、季節行事(どんど焼き、節分、雛祭り、運動会、七夕、スイカ割り、盆踊り、慰霊祭、花火大会、敬老の日、母の日、父の日、餅つき、誕生日会、クリスマス)など、利用者一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が喜びや張り合いを持って暮らせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外の散歩や、ランチ、買物などの外出をしている。時として、家族と一緒にぶどう狩りやリンゴ狩りに出かけている。	周辺の散歩、商店や道の駅での買物、野菜の苗植え、草取りや水かけ、馴染みの美容院の利用、季節の花見(桜、紫陽花、紅葉)、ドライブ(野田神社、仁保ビレッジ、防府天満宮、自宅周辺)、初詣、仁保川の鯉のぼり見学、小学校の運動会見学、農業祭、雑貨フェア、包丁研ぎ等に出かけている。教え子の協力を得て、教え子宅や着物祭り等馴染みのイベント、同窓会に出かけている。家族の協力を得て、法事への出席や墓参、外泊、一時帰宅、外出、ブドウ狩り、りんご狩り、外食に出かけているなど、利用者の希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	苑の中では、お金の使用はしていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは、一部の方はされている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内はどこでも自由に出入りできるようになっている。苑内に畑もあり、収穫を楽しみにされている。	食堂兼居間は広く、大きな窓からの自然光で明るい。窓からは、事業所の畑や地域の田畑、高速道路に続く緑の斜面が見えて、季節を感じることができる。室内には季節の花を飾り、大きな机やソファ、畳表の長椅子、テレビなどがゆったりと配置してある。広い廊下にも畳表の長椅子やソファを配置している。利用者は長椅子に職員と一緒に寄り添うように坐って会話を楽しむなど、思い思いの場所でくつろいでいる。壁面には利用者の入居以前の写真作品や利用者の書いた献立表、カレンダー、時計が飾ってある。温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで入居者のピアノに合わせて、歌を唄ったり、道路側の箱椅子に座って外を眺めたり、思い思いにすごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の使い慣れたタンスを持ち込まれたり、馴染の椅子を持ち込まれたりしている。本人と家族の思いのままに居室は整えられている。	箆笥、小衣装ケース、衣桁、ハンガーラック、小机、椅子、テレビ、ラジカセ、鏡台、時計、本、アルバム、整容道具、寝具、衣類、ぬいぐるみ、造花など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、絵や写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には、手すりの設置、トイレと分る貼り紙、また、居室には本人または家族の書かれた表札を掲げ、分りやすいようにしている。		

2. 目標達成計画

グループホーム はるひ苑

作成日：平成 30 年 5 月 22 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		職員の入れ替わりなどで基本的な介護と認知症介護のレベルの低下を招いている面がある。経験の浅い職員の基礎知識、技術の向上を図りたい。	チームを組み、各ユニットで統一した介護ができるように、知識と技術の向上を目指す。	具体的な指摘や伝達をする。毎朝5分間の協働学習でお互いにスキルアップをする。	6ヶ月
2		日本や世界各地でおこっている災害を他人事と思わず、災害時の対応をしっかり身に着けたい。	何時おこるかも知れない災害に常に対応できるように、日頃から情報・知識・技術を習得する。	火災、地震、水害の防災訓練をする。地域での防災訓練に参加させて頂く。非常食・水の備蓄をしておく。月一回、かまどでご飯やおかずを炊き、電気を使わない食事の準備をする。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。